

平成24年度 第5回 朝日地域審議会

次 第

日 時 平成25年2月6日（水）
午後1時30分～
場 所 朝日庁舎4階 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 ワークショップ

4 協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて

5 その他

6 閉 会

平成 24 年度朝日地域審議会 中間まとめ

メインテーマ：～住み続けることのできる地域づくり～

(案)

サブテーマ ① 集落自治機能を維持し、コミュニティを護る

	各委員の主な意見	今後の議論の方向性
1	<p>集落自治機能の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市街地郊外に朝日団地を造成して格安で分譲してはどうか。 ●集落の戸数、人口が減り、集落自治機能の維持に支障をきたすようになっている。 ●跡取りが家を出て別に暮らすために、高齢者のみの世帯が増えている。 ●集落を維持存続させるため、農業を活性化しようと、集落営農に取り組んでいる。集落に今後、長く住むことができるような対策を築けないかと考えている。 ●昔、特に農村地域では家単位で全てをやってきた。それには家族構成や子どもの教育などがちゃんとしていなければならなかったが、それが忘れ去られてしまっている。 ●山が大部分のこの地域で土地を離したら、何もこんな不便な場所に住む理由もなくなる。地域が踏ん張って生きていけるような対策を考えていかなければいけない。 ●集落再編（自治会の合併等）には慎重な議論が必要だ。 ●中山間地域では主に農業があって集落が形成されてきた。集落維持には農業振興は必須条件。 ●少額の年金しか収入がなく、自治会費を払えない世帯が出てきている。 ●地域には災害に対応する、もしくはそれを復旧する力がない集落がでてきている現実がある。 	<p>⇒集落自治機能の維持・再生</p> <p>集落人口・戸数の減少や若年層の流出により、農地や山林の維持、共同作業などが困難になっている。</p> <p>解決策として集落再編（自治会の合併等）の考え方も意見として出されているが、賛否両論があることから、利点と弊害について議論を重ねて、方向性を見出していく必要がある。</p> <p>また、集落機能を維持し、または再生させるために、農業振興が有効だとする意見が多く出された。</p> <p>これまでも産業振興の部分では、安定兼業の考え方をとっているので、集落の維持に結びつく具体的な方策について検討を進めていく。</p>
2	<p>少子・高齢・過疎化の進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ●即効性も大事だが、同時に不易の部分、長期スパンできちんと将来を見据えたことが必要なのではないか。教育から大切な部分が外れてしまっているのではない 	<p>⇒少子・高齢・過疎対策</p> <p>少子高齢化は全国的な傾向であり、過疎化についても即効性のある対策が</p>

	<p>かと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今まで過疎対策イコールハードに力を入れて、お金をどんどん使ってきたが、それに伴うソフトが置き去りにされてきてしまった。 ●第一次産業の後継者不足は深刻だ。田畑を荒らしてしまうと元に戻すのが大変だ。 ●経済が伴わないと定住ができないので、総合的な対策が必要だ。 	<p>打てないのが現状である。</p> <p>水源としての森林を守り育てるため、山村集落の存在意義を理解することで、グローバルな視点でローカルな対策を講じるような議論が必要とされている。</p>
3	<p>空き家問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●集落の中に解体しない空き家、壊れた家が増え、景観上、防犯上の問題がある。 ●利用できない建物は解体、再利用できるものは地域で利活用できるような法制度を整備すべき。 ●田舎暮らしを希望する人に、空き家のマッチングを行ってはどうか。 	<p>⇒空き家対策</p> <p>鶴岡市においては空き家条例が制定されたことで、対策が進むことを期待したい。</p> <p>朝日地域においても、地域性に応じた効果的な対策について考え方を議論していく必要がある。</p>
4	<p>生活環境の悪化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今回、メインテーマにもサブテーマにも雪の文言が一言もないが、克雪は朝日にとって重要な課題。利雪についても考えていきたい。 ●公共交通の便が悪く、通院や買い物に支障をきたしている。デマンド交通などを検討すべき。 ●三交代勤務者が通勤可能な24時間体制の除雪を確立してほしい。 	<p>⇒交通の確保・克雪利雪対策の促進</p> <p>朝日地域にとって雪処理の問題は恒久的な課題であるが、なかなか解決できないのが現状である。</p> <p>公共施設だけでなく、住宅や宅地等の除排雪に対してもなんらかの措置を考える段階になっているのではないか。個人レベルでも、負担の少ない住環境をつくっていくよう啓蒙すべき。</p> <p>また、公共交通については路線バスに頼ってきたが、デマンド交通など効果的な対策について考えていきたい。</p>

<p>5</p>	<p>公共サービスの低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ●防災設備の整備をするにも朝日と鶴岡では1戸あたりの負担が相当違う。同じように水道、下水道や道路にしても、地域特性を理解してもらって行政施策を進める必要がある。 ●行革を大義としてどんどん合理化が進められ、いわゆる周辺地域のフォローをどのようにして考えているのかということは全く見えない。 ●住み続けることのできる地域づくりと言うが、悠長な話でなくてすぐに具体化できるようなものでないと間に合わないと思っている。 ●税金や公共料金はすべて平準化され、かなりの負担増になったが、その一方で社会福祉協議会の会費は、いまだに旧市の三倍を払っていることは逆行している。 ●高校生の通学助成は所得制限を撤廃し、拡充すべき。 ●公民館等の雪下ろしも業者に委託しなければならない。経費に対する助成をしてもらうことはできないか。 	<p>⇒公共サービスのあり方</p> <p>公共サービスと負担のあり方については、税や公共料金（上下水道料、保育料等）が一律になる一方、税外負担や受益サービスについて公平なのか疑問が呈された。</p> <p>高校生の通学や除排雪などに対する行政支援なども含め、受益と負担の公平なあり方について、考え方を取りまとめていくよう議論する必要がある。</p>
		<p>⇒高齢者福祉</p> <p>福祉関係については目立った意見が出されていないが、在宅福祉、地域福祉について、安心して暮らすことのできる地域づくりの観点から議論を進めていく必要がある。</p>

平成 24 年度朝日地域審議会 中間まとめ

メインテーマ：～住み続けることのできる地域づくり～

サブテーマ ② 中山間地域の特色を産業に活かす

各委員の主な意見		今後の議論の方向性
1	<p>潜在的地域資源に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中山間地に適した作物を模索すべき。山ぶどうだけに頼らず、新品目の開発を。 ●朝日の場合は山の恵みを生かした産業で加工販売に取り組み、また、最近流行している体験型を取り入れた農業ビジネスを進めていくことが必要ではないか。 ●山ぶどうはワインを売る路線に偏りすぎたと思う。健康のためにサプリメントを買う時代、売り方によって収益は絶対に増える。 ●里山文化に癒しを求める観光客も本当に多い。朝日のよさをなくさないように、いろんな工夫をしていきたいと思っている。 ●里山には商品になるものは山ほど隠れていると感じているが、初期投資が多くかかるので地域とか行政で支援するなどして商品化できないか。 ●一つの作物を振興して利益を上げることも大事だが、元々あるものを活かした利益の上げ方もあり、特産品の開発にもつなげられると思う。 ●小水力発電に取り組むには、水利権をもっと緩和してもらえば地元の農家の利益につなげられると思う。 ●朝日の伝統食を再現し、観光に結びつけることができないか。 	<p>⇒地域資源の利活用</p> <p>意欲的に農林業に取り組む住民はいるものの、基幹産業として確立できないのが現状であるが、集落の機能を維持するための農業経営のあり方として、潜在的資源の利活用や少量多品目生産に対する支援、付加価値を得るための施設・設備を整備する必要性が挙げられた。</p> <p>そば振興のあり方、山ぶどうの多角的な商品展開、山ぶどう以外の有力品目の研究の必要性などを議論していく必要がある。</p>
2	<p>販売戦略に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●産直あさひグーも体験交流会を年々増やして、朝日の自然を満喫してもらった。朝日のよさを見てもらうために続けていきたい。 ●販路拡大事業で、ネット販売に取り組み始めた。産直グーも従業員が少ない中では非常にむずかしいが、時代に取り残されないようにがんばるつもりだ。 	<p>⇒販売戦略の構築</p> <p>産直施設の有効活用や販路の拡大などに関する意見が多く出された。</p> <p>農産物の販売については、生産者の努力もさることながら、6次産業化や</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●販路を広げるような対策に取り組んでもらえると、若い人から年配の方まで収入を上げやすくなる。 ●農産物も木材も世界に目を向けて外国に売っていかなければならないと思っている。そのために我々は一生懸命勉強しなければならないし、市の力だけでなく県の機関、国の機関も利用して知恵を絞っていききたい。 ●山菜や柿の加工法、山ぶどうの効能などを消費者にPRしていく必要がある。冊子「やまのごっつお」を活用したり、イベントの機会に取り入れてはどうか。 	<p>観光産業とのリンクによる相乗効果をはかるよう、行政の支援が必要とされる。</p>
<p>3</p>	<p>鳥獣被害に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鳥獣被害対策は待ったなしの課題であり、即効性のある対策が必要だ。電気柵、見回りなど対策が単調になっている。 ●杉林を減らしてブナ林をもっと復活させれば、鳥獣の食べるものが増えてきて下りてなくなると思う。10年、20年もかかるとは思えると思う。 ●鳥獣被害対策で巡回をしてもらっているが、守備範囲が広すぎるので、見回り隊を集落単位で置いてもらえば効果があると思う。 ●鳥獣被害対策は地元だけの問題でなく、鶴岡市全体の問題として共有することが必要だ。 ●鳥獣被害によって収入が減収したり、生産意欲がなくなったりそのようなことが多い。鳥獣被害の防止対策として支援の拡充をお願いする。 ●鳥獣被害は経済的な損失もさることながら、耕作意欲が減退し精神的なダメージが大きい。 	<p>⇒鳥獣被害対策の促進</p> <p>鳥獣被害は、年々深刻さの度合いを増しているが、これまでは対策が後手に回り、費用対効果も低いなど、打開策を見出せない状況が続いている。</p> <p>これまでの対症療法的な対策からの脱却、長期的な対策の必要性も議論していく必要がある。</p>
<p>4</p>	<p>林業の衰退</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中山間地域では、林業が衰退すると農地は荒れて水も悪くなる。林業をいかに生き返らせるかが課題だと思っている。 ●燃料も含めてペレットストーブが大変いいと思っている。木材はいくらでもあるので、ペレット工場などを始めてみてはどうかと思っている。 	<p>⇒林業の振興</p> <p>社会情勢、経済情勢などから、産業として確立することは難しいが、水源涵養や環境保護の立場から、森林を保全していく必要性が意見として出され</p>

		<p>た。</p> <p>また、ペレットストーブの普及と、それに伴う燃料の生産などに活路を見出すべきとの意見もあり、議論を進めていく必要がある。</p>
5	<p>後継者問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農家の後継者が農業を継がないことが当然のようになり、農地や集落を維持していくために集落営農を立ち上げたが、今後は法人化が必要だと考えている。 ●産直組合でもいちばん悩みは後継者がいないということだ。7、8年たって、固定客、リピーターが増えたが、引き継いでくれる人がいないことが、これから産直、そして朝日にとって大きな問題だと思う。 ●一次産業が非常に高齢化している。集落営農を早急に進めないと本当に放棄地がたくさん出てきて、委託する人は増えるが受け手が出てこないという実態が急速に、かつ大幅にやってくる。 ●集落を維持する、住み続ける地域をつくるには農業、土地がいちばんの要だと思っている。集落が維持できなければ住んでいる意味もないという意見もある。 ●農地の賃貸借を進めたらよいと思うが、個人対個人ではむずかしくなっているのので、JAや農業委員会ではできないものか。 	<p>⇒後継者対策</p> <p>定住対策としての農林業の振興とあいまって、農業経営のあり方が問われている。</p> <p>法人化による雇用の安定化、冬季間の収入源など、後継者が農業に携わっていける対策を講ずるべく、議論を進めていく必要がある。</p> <p>また、兼業農家が安定的に農業に従事できるような方策についても議論を進めたい。</p>
6	<p>施設に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●朝日にもきのこやクリ、山菜など、ここにしかない産物があるが、産直グーの加工室や乾燥機などの施設をフルに活かしてきていないと思う。 ●朝日地域の生産物を全て店頭販売用にパッケージして販売に力を入れれば、おそらく現在の所得の3倍以上になると思っている。パッケージセンターを整備すべき。 	<p>⇒施設整備の推進</p> <p>産直あさひグーに加工設備を整備すべき、また、新たにパッケージセンターを整備すべきとの意見が出された。</p> <p>農業振興に有効な施設整備のあり方について議論を進めていく必要がある。</p>

7	<p>雇用問題（自営含む）</p> <p>●朝日自体での収入源を作るための仕事をもっとつくりないと、地元に対しての意識がすごく弱くなると感じている。</p>	<p>⇒雇用対策</p> <p>地場産業の振興、起業に対する支援などについて議論を進める必要がある。</p>
---	---	---

平成 24 年度朝日地域審議会 中間まとめ

メインテーマ：～住み続けることのできる地域づくり～

サブテーマ ③ いきいきと輝く“ひと”と地域を創る

各委員の主な意見		今後の議論の方向性
1	<p>生涯学習活動の停滞</p> <ul style="list-style-type: none">●子どもが減り、子ども会活動などが困難になってきている。●豊富な知恵と技術を持っている老人パワーを集落で活かしきれていない。集落で生かす方法はないものか。●里山の文化とか昔のものに癒しを求めてやってくる人がたくさんいるので、荒れた山、田畑がいっぱいあるが、山を守ったり田んぼを守ったりして、そういったものは大切に残しながら進めてもらいたい。●地域の行事に子どもたちがみんなに参加する機会もあまりないように思う。その地域の中にどんな資源があるのか、どんな文化があるのかを知らないで将来ここに住み続けていけない。●地域学習をすることによって活性化にもつながるし、将来的な定住したいという気持ちに結びつく。	<p>⇒生涯学習活動の推進</p> <p>生涯学習を担ってきた公民館活動が停滞しているとの意見が多く出された。</p> <p>少子高齢化、人口の減少によって活動機会が減っていることも要因としてあるが、これまで減免などの措置によって負担をすることなく使用していた施設が有料化し、団体会計を圧迫しているという声も大きい。</p> <p>また、行政側からの仕掛けが少なくなっているとの指摘もあり、ニーズの把握も必要とされている。</p>
2	<p>人材育成の課題</p> <ul style="list-style-type: none">●グリーンツーリズム・観光客等、地域外の方をより多く呼び込むためには、生活している人が明るく元気で自信を持った生活をしていることが大切だ。●かつて活発だった青年団や集落単位の青年組織を行政主導で作り上げて誘導していく必要もあるのではないか。●地域づくりにはやはり人づくりが核になる。学ぶことの楽しさを知る機会をつくって助長していくのが公民館活動だと思う。地域の人と人を結び、地域の文化を	<p>⇒人材育成・活用</p> <p>“人づくり”の重要性に関する意見が多く出された。</p> <p>特に幼少期から、地域に対する愛着心を育てていけるような取り組みについて考えていきたい。</p> <p>若年人口が減少する中で、サークル</p>

	<p>高めることが、地域の活性化につながっていくと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地産地消活動で、おいしいものを小さいうちからみんなに食べてもらい、地域のよさを食べ物から、胃袋から訴えていきたい。 ●朝日地域では、数字だけで話をするのではなく、若者たちがここに帰ってきたくなるような夢を話し合えるような審議会であつたらいいと思っている。 ●若い人が具体的に地域のことに取り組む人がすごく少ないと感じる。もっと具体的に地域にどんな問題があるかということをもっと小中学校の頃から感じてもらわないと、2、30年後にいざ、まちづくりにかかわったときに具体的に活動できる人が少なくなるのではないか。 ●鶴岡市全体に言えるわけだが、優秀な人材が大学等を卒業しても、地域に残って仕事をする場所がない。優秀な人材が定住できるような条件が必要だ。 	<p>活動や地域活動について若者が参画できるようにすることは難しい面も多いが、地域に活力を生み出していくための方策などについて議論を進めていく必要がある。</p>
<p>3</p>	<p>イベント・地域おこし活動の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●石巻では、海をきれいにするには山からきれいな水が流れてこないダメだと広葉樹を植えている。朝日地域でも海と関連したイベントのようなものをつくっていったらよいのではないか。 ●若い人の活躍の場であった祭りが今は貧弱になってしまい、神楽や盆踊りなどがなくなった集落もある。住民全員が交流できる場が復活すれば、集落にも活気がでる。 ●婚活イベントは民間でやっていることに対して行政がちょっとだけ応援してあげるとすごくスピード感があるイベントを発信することができると思う。すべての取り組みの目線を見直してほしいと感じる。 	<p>⇒イベント・地域おこし活動の推進</p> <p>既存イベントのマンネリ感、参加者が少ないことなどが課題として出されている。</p> <p>行政主導からの脱却、民間活動へのスピーディーな行政支援なども求められており、地域活動のあり方について議論を進めていく必要がある。</p>
<p>4</p>	<p>芸術文化活動の停滞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の伝統行事の継承がむずかしくなっている。地域の歴史を紐解く機会づくりに取り組んではどうか。 ●集落でかつて継承されてきた歴史と文化の発掘とか復活を提案したい。例えば祭 	<p>⇒芸術文化活動の振興</p> <p>伝統文化の継承に対する危機が叫ばれて久しいが、効果的な対策を講ずるまでには至っていない。</p>

	<p>り文化だとか、神社で盆踊りをするなど、拠点集落に行政が応援し助成、補助を試してみたらどうか。</p> <p>● 芸術文化関係の団体でも高齢化が非常に大きな問題になっている。人口の絶対数が少ないということもあると思うが、なかなか若い人が入ってこない。</p>	<p>伝統芸能の発掘・復活や地域文化活動に対する支援のあり方、さらには芸術文化団体の活性化について議論を進めていく必要がある。</p>
5	<p>公共施設に関する課題</p> <p>● “すまいる” やスポーツセンターの使用料が有料化になり、民間の様々な団体、趣味活動、芸文関係の団体等が使いにくくなっている。</p> <p>● “すまいる” 以前と比べると冷房も効きにくくなり、暖房も温まりにくいので、もう少しハード面を改善してもらいたい。</p> <p>● 6市町村みんな公共施設の料金体系が一緒になっているが、地域性によって料金が違っていいと思う。</p>	<p>⇒施設整備・使用の促進</p> <p>合併調整により使用料の平準化や減免対象の統一化がはかられた結果、朝日地域では負担が増した団体が多く、活動が停滞する大きな原因になっているとの意見が強い。</p> <p>また、すまいるの冷暖房機能など、ハード面に関する不満の声もある。</p> <p>旧市町村コミセンとの比較で、同じような使用形態で逆に不均衡が生じていないのか疑問もあり、地域活動センターへの移行に関わり、どのような利用になるのか議論を進めていく必要がある。</p>